

# 住みよい下大野

## 第55号

令和8（2026）年3月15日発行

下大野市民センター内 「住みよい下大野をつくる会」

311-1131 水戸市下大野町 6094-1 Tel 029-269-1288

p.1 いくらか歩くかい／共同募金会より

p.2-3 下大野サ皆コーまつり

p.4 常澄駅前電飾／正月飾りづくり／味噌づくり

p.5 小泉町そば打ち体験会／歌劇団！／編集後記・編集部

p.6 下大野風土記（昭和の耕地整理とその頃）



### 共同募金会より

水戸市共同募金委員会より赤い羽根募金のお礼が来ています。1月末時点で、

31,407,345 円の募金があったそうです。

### いくらか歩くかい

令和8年2月26日に、恒例の「いくらか歩くかい」が20名の参加を得て実施されました。当初は12月24日にクリスマス・ウォークとして企画されましたが、荒天のため延期されていたものです。

雨こそ降りませんでしたが、出だしから強風に悩まされました。今回は電車も使って大洗駅から歩き始め、茨城百景にも選ばれている大貫海岸を見下ろす展望台を通過します。ここには、大関五郎の詩碑と田崎秀の歌碑もありますが、風が強かった。

飯沼街道を辿り、夏海の街並みを抜け、統合された大洗南小学校・南中学校を見て、成就院鈴澤寺で休憩です。ここから、目的地である幻の「松川藩」陣屋跡に入ります。大洗町教育委員会が昨年設置したばかりの簡単な説明板が畑の真ん中にありますが、建物跡からは今でも当時の食器などのかけらが出るそうです。

銚田市に入り、「みのわ水鳥公園」でしばし風を避け、涸沼駅から電車で戻りました。歩いた距離はほぼ10kmでした。(Y)

# 下大野サ皆コーまつり

令和7年11月23日(日)に第24回下大野文化祭「下大野サ皆コーまつり」が盛大に実施されました。多数のご来賓の参加をいただき、ご祝辞を頂戴いたしました。



9時30分頃からは、まつりの最初となる大イベント「開幕ビンゴ大会」。非常に豪華な景品もある?ということで大変な盛り上がりとなりました。



9時50分頃からは、保険推進員の皆様の指導の下、脳トレを取り入れた楽しい健康体操。



10時10分頃からは、フラダンスクラブ「プルメリア」によるフラダンスのショーがエレガントに開演。季節の寒さも何のその、いつもながら優雅に踊っていただきました。



10時30分頃からは、合気道クラブの皆様による模範演技。



11時頃からは、マーチングバンド「コンティニュー」による演奏と演舞。迫力がありません。



祭りも盛り上がる中、水戸市長高橋靖様よりご挨拶を頂きました。



11時40分頃から、下大野小学校の5・6年生による「大野みろく」の伝統芸能の継承の披露。



12時10分頃からは、豪華景品付きホールインワンコンテストの開催。真剣に狙って打ちました。



12時50分頃からは、大野みろく保存会による、下大野地区の伝統芸能「大野みろく」の披露。



13時30分、時間厳守で始まる「まつり」の締め「まき餅」です。前半は、子供限定でのまき餅。後半は、大人が参加できるまき餅の2部制で行われました。



この「まき餅」の終了をもって「下大野サ皆コーまつり」の終了となりました。



これらの野外イベントが行われる中、野外会場では多数の模擬店も出展しました。おいしい食べ物を食べ歩きながら、多くのイベントを楽しめたことと思います。

## 《模擬店》

- ・無料トン汁
- ・綿あめ、水ヨーヨー
- ・焼きそば
- ・ライスカレー
- ・焼き芋
- ・あんころ餅
- ・おにぎり
- ・無料納豆料理
- ・パン焼き
- ・クッキー

〈フラワーアレンジメント〉



〈つるし雛クラブ〉



〈いきいき健康クラブ〉



〈飛田式ななめ川柳〉



〈下大野小学校児童展示〉



〈下大野小学校児童展示〉



〈県立産業技術短期大学校展示〉



〈下大野地区保健推進員による「握力・血圧測定、健康相談」〉



〈水戸高等特別支援学校展示〉



今年の皆コーまつりは、天候にも恵まれて盛況でした。このまつりは地区の住民の交流のために、地区会のみならず関係する諸団体・個人のご尽力いただいています。21日から準備が始まり片付けは25日です。感謝を込めて、最後に「まき餅」準備風景を紹介します。(MY)



以上が野外イベントでしたが、並行して、市民センター屋内にて「文化祭」作品展示等が実施されました。

〈書道〉



## 常澄駅前電飾

常澄駅前の植え込みロータリーの電飾イルミネーションが今年で3年目になり明るくリニューアルされました。

11月29日に、常澄駅前を明るくしようと、住みよい下大野を作る会のメンバーが集まり、草刈り機・剪定梯子・チェーンソー・ハサミ等を持ち寄り、ロータリー内の草刈りやモチノキの枝払いを行い、イルミネーションも昨年より本数を増やして取り付けました。



ソーラーパネルで電力を供給しているので環境に優しく、暗くて寂しかった広場が明るくなりました。枝払いや、イルミネーションのバランスを声かけながら協力しあい完成する事の喜びを皆んなで共有でき心も明るくなりました。

8月の除草作業では、商工会青年部にもご協力をいただきました。皆様に感謝です。(山田正寛)

## 正月飾りづくり

12月23日(火) 午前10時より、「正月飾りづくり講座」が開催されました。講師は、飛田邦夫様と高橋基様のおふたりです。



材料は、地元の農家が手間をかけ、種まきから刈り取りまで丹念に育てた物。何とも言えない「わら」の香りは、新年を迎えるのにぴったりです。

講師の指示に従って、藁を捻りながらまとめて編み上げ、垂れの藁を差し入れ、最後にお飾りを取り付けて完成です。

毎年参加される方も多く、手際良く飾りつけが進んでいました。自分が住む土地の恵みの藁を使って、歳神様をお迎えすることができます。正月飾りは神事の一部で、神事は土地の神様への感謝でもあります。

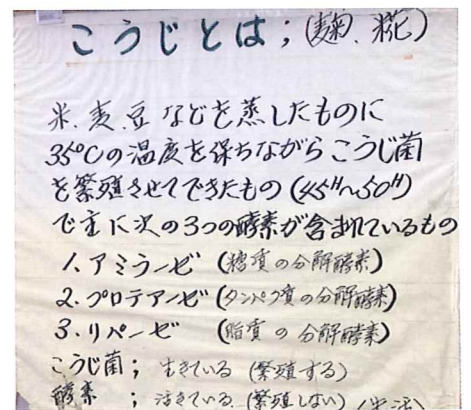
(M・Y)

## 味噌づくり

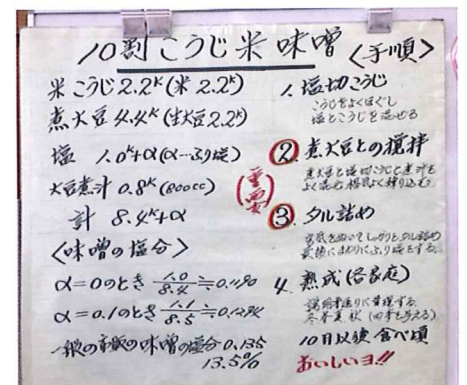
1月20日に市民センターにおいて、「味噌づくり」の講習が行われました。講師は現職の麴屋さんである秋葉節夫さんです。



材料は、麴、大豆、塩です。味噌は発酵食品ですから、麴の話から始まり、参加者はじっと耳を傾けます。



味噌づくりの話になり、ここからは、手順を聞きながらの実習です。



仕込み完成の状態です。仕込んだものは、いま自宅で眠りにについています。(IY)



## 小泉町そば打ち体験会

10月19日(日)小泉集落センターで小泉子供会育成会が企画した、そば打ち体験会が開かれました。

ご指導いただくのは、そば打ちの資格をお持ちの大山勝也様で、大山様はそば打ちの普及活動に力を入れておられます。

参加したのは子どもたちと保護者、合わせて約20名。大山様からそば打ちの工程である、(1)水回し、(2)こね延し、(3)たたみ、(4)切りの工程を、子どもたちにもわかりやすくユーモアを交えて教えていただきました。(NO)



### 〈初めての福住そば〉

六年 福住 京太郎

ぼくが感じたこと、学んだことが二つあります。

一つ目は、「そば打ちは、楽しいけど、難しくもある」ことです。体験前は甘く見ていましたが、いざやってみるとこね方が難しかったです。伸ばしすぎると切れちゃうからです。

二つ目は、「最後までいいものができるかは、わからない」ということです。最初は良くないかもしれないけど、最後はわからないということを学びました。おかげで、美味しいそばもできました。

### 〈そば打ちで学んだこと〉

六年 桧山 慶多

ぼくが、学んだことは、今まで当たり前のように食べていたそばに、プロのすごい技術が詰まっているということです。自分で打った生地がうまく固まらなかったり、きれいに生地を伸ばせなかったり、大変なことばかりでした。おいしいそばが

こんなに工夫されているとは思っていなかったです。が詰まっていると思いました。



### 〈楽しかったそば打ち〉

五年 小泉 春樹

ぼくは、初めてそば打ちをしてみても楽しかったことは、水回しです。そば粉と水をまぜるときに、指に粉がつく感覚がとてもふしぎで楽しかったです。

ほかにも、生地をのばす作業や生地を切ったりする作業もとても楽しかったです。

年末の年こしそばで、お父さんとおじちゃんと一緒にそばを作りましたが、すこしうまくできなかったけど、家族みんなでおいしく食べました。

### 〈初めてのそば打ち体験〉

六年 飛田 心春

私は、手作りのむずかしさを実感しました。

「水回し」の工程では、粉に水を加えて混ぜるだけの作業に見えましたが、じっさいはむずかしかったです。一粒一粒に水が行きわたるよう必死に手を動かしました。粉がだんだんと、しっとりしたかたまりに変わっていくようすは、まるで生き物をつかっているようなふしぎな感覚でした。

「のばし」では、生地を同じ厚さにするのがむずかしく、力が入りすぎないようにしました。慎重にめん棒をころがし、きれいな形に広がったときは、大きな達成感を感じました。できたおそばは形がばらばらでしたが、味はおいしくて、もちもちしていました。

## 歌劇団！

1月17日グリーンハウス「ニコニコカフェ」企画により、稲荷第一市民センターにて呼華歌劇団の公演が行われました。



当日、ホールは満席状態でした。グリーンハウス水戸を利用している皆様、スタッフ、近隣住民の皆様で楽しみました。

茨城での公演は、初めてとの事でした。最初は、会場の皆様にリラックスしていただくのに軽く準備体操から入りました。

心を打つ歌が始まり、トークを交えて懐かしい昭和の歌謡を中心に、シャンソンや日本舞踊など流れるようなストーリー展開です。スムーズに引き込まれる物語と歌に酔いしました。

客席にまで入り、会場の皆さんに溶け込み、最後には会場の皆さんと記念撮影をして、いつまでも暖かさの余韻が残る一日となりました。

(NO)

## 編集後記

本年度最後の「住みよい下大野」第55号が無事発行できました。取材に協力して頂いた方々には心より感謝いたします。また、編集長はじめ編集部員の皆さんもお疲れ様でした。

次回新年度初の発行は6月下旬発行予定です。楽しみにお待ちください。(KK)

## 編集部員

吉川正弘・市毛英耕・後関圭子・平戸賢一・荻谷信之・栗原一則・桜井和宏・吉川康範・吉川勲

## 下大野風土記 (昭和の耕地整理とその頃)

令和6年度から、川又小泉団地で  
国営緊急農地再編整備事業の一環  
として水田の基盤整備が実施され  
ています。令和7年度の現在、川又  
3、4、5の工区で3月中の完成をめ  
ざし工事が進んでいます。

ここは昭和28年度、今から73年  
前に耕地整理が実施された所です。  
この区域は低地なことから、今度の  
施工で田面が海拔1.2mに嵩上げさ  
れ塩水の影響も緩和、1辺が100m  
の区画となり従前に比べて極めて  
作業効率の良い圃場となります。

さて、「最早、戦後ではない！」  
戦後10年を経た昭和31年、中学  
生になったばかりの私にも新聞や  
ラジオから新たな時代のキャッチ  
フレーズを覚えています。

当時、下大野村も昭和の大合併の  
中で三ヶ村による「常澄村発足」間  
もない頃でした。世の中はまだ食糧  
の需給はひっ迫の時で、農家であ  
っても日常は麦飯が当たり前で一般  
には配給制が続いていました。

戦後、国はあらゆる分野の荒廃と  
食糧難に苦慮していました。これら  
を背景に昭和24年土地改良法が制  
定され、これに伴い千波湖普通水利  
組合も同26年8月、千波湖土地改  
良区と組織変更がありました。



そうした折、昭和27年の秋、平  
戸から始まった水田の耕地整理事  
業は開闢以来の形状を、一辺30間

(54m)の方形圃場に改良する画期  
的な事業でした。

古地図で見る限り道も曲がりく  
ねりの狭いもので、人蓄作業の時代  
であっても極めて不便な田園でし  
た。また用水事情も悪く度々濁水が  
あり、備前堀水系の各区毎、刻水(こ  
くすい)をして水を引き合うなど長  
年の課題でした。こうした事情と相  
まって経済力の弱かった時にも関  
わらず食糧増産の熱意によって事  
業が実施されたのです。



まだダンプもブルドーザーもな  
い時代、農家総出の人海作業でした。  
道具といえば土を掘るエンピ(円  
匙)、人力トロッコ、一つ車(木製一  
輪車)、カマスで作ったモッコ。土羽  
打ちという道路の法面を叩いて施  
工する板に柄のついた工具などが  
主でした。

当時、タイヤの一輪車はなく木の  
車だったので道板を敷き押ししてい  
ました。トロッコは1台男二人で担  
当、線路に4、5台並んで積み込み  
から往復の手押し作業でした。モッ  
コ担ぎは主にお母さん方のように  
見えました。

こうした作業は、秋の農作業の後  
春まで順次行われ、昭和31年度末、  
当初の平戸地区から旧下大野村の  
全域で完成を見たのです。作業に従  
事した人々の年代は、男で明治40

年前後生まれから昭和10年辺り、  
女性は大正中頃から昭和初期生ま  
れまでの方々でした。

当時まだ嫁さんといわれた若い  
方々の苦労は大変なものであり、ま  
だプロパンガスのない時代でした  
から、家事全般、乳呑児の授乳、そ  
して男達と作業現場へは遅れまい  
と駆け足で行き、昼時の1時間はま  
た駆け足で戻り、授乳や家事などで  
自分の食事など掻き込むようにし  
て午後の現場に走ったといえます。  
夕方の作業終了の旗が下りると陽  
が短い時期でもあり、また家事の  
ため早足で家路についたと当時の  
方々の後世談を幾度か聞かされま  
した。

当時、正月はじめ様々な年中行事  
は旧暦で行っていたので節分の頃  
が正月で、このときは少しの休みが  
あったが、これはこれで年末年始の  
しきたりがありよく体がもったも  
のだと回想していました。

工事費償還は18年だったと思い  
ますが、作業の日当は二百何十円か  
でこれは各農家面積の工事費軽減  
として相殺分もあったので各自の  
懐に入ることは無かったようだと  
も伺いました。

かくして完成の暁、乾田化した圃  
場は丹精な努力と弛まぬ研鑽によ  
り、それまで一反歩7、8俵といわ  
れた収穫が9俵を上回る耕地とな  
りました。

国では、端境期の9月末日までに  
出荷した米には早場米奨励金を支  
給する対策が講じられ、時局に応じ  
一日でも早く供出できるよう努力  
を重ねたこの地域は、下大野農協を  
通し県北一の早場米産地として名  
を馳せ食糧難克服に大きく貢献し  
たのです。

耕地整理によって、唱歌にある、  
「ウサギ追いしかのやま、小鮎釣り  
しかの川」の原風景が大きく変わ  
ったかもしれません。この懐かしき  
昭和も遠くなりにけり、かな？

(飛田邦夫)